

2025 年 4 月 1 日

2024 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する（ ）に ○を付ける	・ 共同研究（○ ） ・ 個人研究（ ）	
研究代表者 (所属・職・氏名)	大木裕子（ビジネス学部・教授・大木裕子）	
研究課題名	消費と産地を有機的に融合する	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
荒井弘毅	ビジネス学部・教授	主に理論構築及び定量調査分析
研究期間	2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日	

研究実績の概要（１）
本研究では、日本の伝統産業が直面する課題とその再生・発展の可能性を探ることを目的に、以下の 5 点の到達目標を設定し、調査・分析・考察を行ってきた。本報告では、それぞれの到達目標に対する実績について、順を追って報告する。 到達目標 1 日本の伝統産業の具体的現状を把握するために、文献を中心に情報収集を行うとともにインキュベーションについて概念を整理する。 本研究に着手するにあたり、まず日本の伝統産業が置かれている現状を的確に把握することを第一の目標とした。これを達成するために、国内外の学術論文、専門書籍、業界誌、新聞記事、インターネットを通じたデジタル資料など、多角的な情報源から関連情報を収集・整理した。また、過去の事例や市場動向に関するデータも参照し、伝統産業が抱える構造的課題や近年の変化を明らかにした。 さらに、伝統産業の再生・発展の可能性を考える上で欠かせない「インキュベーション（起業支援・創出支援）」の概念についても検討を行った。特にアントレプレナーシップ（起業家精神）の観点から、国内外の先行研究を参照し、産地における事業創出や後継者育成におけるインキュベーションの意義と必要性について整理した。加えて、研究会や学会等において専門家との議論を重ね、伝統産業におけるインキュベーションモデルのあり方について検討を進めた。 到達目標 2 伝統産業の課題を抽出するために、ヒアリング調査を実施し研究枠組を構築する。 文献調査を通じて伝統産業の概況と課題を俯瞰的に把握した上で、現場の実態や当事者の声を反映した研究枠組みを構築するため、ヒアリング調査を実施した。調査対象地域の選定にあたっては、伝統産業の集積状況や産地の特徴、調査協力の可否を踏まえ、以下の地域を抽出した。

研究実績の概要（２）

・中部地方（愛知県・岐阜県）・近畿地方（京都府・大阪府）・四国地方（香川県）・九州地方（佐賀県・福岡県・長崎県）・沖縄県

これらの地域は、それぞれ異なる伝統産業の背景と課題を有しており、比較検討を行う上で有益であると判断した。現地への訪問調査（プレ調査）を実施し、行政関係者、事業者、職人、流通関係者等へのヒアリングを行った。この過程で、伝統産業の抱える共通課題と地域特有の課題を洗い出し、今後の詳細調査のための研究枠組みを構築した。

到達目標３ 研究枠組みの精緻化のために、少数の詳細な事例研究をおこない、成功事例・失敗事例について分析する。

プレ調査を通じて得られた研究枠組みをより精緻化するため、特定の産地を対象とした詳細な事例研究を実施した。具体的には、以下の地域における陶磁産業を対象とした。

- ・佐賀県武雄市（肥前唐津系陶磁器）
- ・沖縄県那覇市および読谷村（沖縄の焼物文化）

これらの地域において、生産現場に足を運び、複数の窯元に対する詳細なヒアリング調査を実施した。調査では、事業継承、人材育成、販路開拓、技術革新への対応といった観点から、各窯元の取り組みや経営課題を把握し、成功事例と失敗事例を比較分析した。この事例研究を通じて、伝統産業が持続的に発展するために必要な要件と、失敗に至る要因について具体的な知見を得た。

到達目標４ 研究枠組みを精緻化した上で、研究枠組みに従い、産地と消費地の融合について具体的な方法論を考察する。

詳細な事例研究を踏まえ、研究枠組みをさらに精緻化した上で、産地と消費地の融合による伝統産業活性化の方策を検討した。そのために、以下の大規模アンケート調査を実施した。

- ・一般消費者 1,000 名を対象としたアンケート調査
- ・伝統産業に従事する職人 500 名を対象としたアンケート調査

これらの調査を通じて、消費者の伝統産業に対する認識や購買意識、職人の意識と課題認識、テクノロジー導入に対する抵抗感や期待といったデータを収集・分析した。その結果、産地と消費地を結ぶためのマーケティング戦略、技術革新の導入方法、人材育成の方向性について、具体的な方法論を提示することが可能となった。

到達目標５ 産地融合のための人材育成プログラム開発の可能性について検討する。

これまでの調査・分析の成果をもとに、伝統産業における産地と消費地の融合を実現し、持続的発展を目指すための人材育成プログラムの開発可能性について検討を行った。特に、伝統産業において新たな価値創造を担うことができるアントレプレナーシップ人材の育成を目指し、プログラムの設計案を取りまとめた。

具体的には、産地の職人や事業者と消費地のクリエイターやプロデューサーが協働し、新たな商品開発や市場開拓に取り組む実践型プログラムを構想した。また、これらの取り組みを推進するため、リーダーシップ GP への応募を視野に入れ、プログラム開発に向けた準備を進めている。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

学会発表

Yuko Oki, Koki Arai, Harmonizing Tradition and Technology: The Future of Artisanal Craftsmanship, ESA '24 Porto Conference, ポルト大学、2024 年 8 月

査読付き論文

Yuko Oki, Koki Arai, Harmonizing Tradition and Technology in Artisanal Craftsmanship、しごと能力研究学会『しごと能力研究』12、pp.52-69. 2024 年 11 月